

有機栽培農業と地産品による観光と地域振興の取組みについて
(調査報告)

平成20年10月

川崎市議会議員 吉沢 章子

1 調査の目的

住農混在の都市農業における近隣との調和のための低農薬化と有機栽培農業による観光農園の経営実践を調査し、多摩区での都心農業のあり方や後継者育成の課題解決を図る。

2 調査対象

山梨県山梨市牧丘町

- ・ 前田葡萄園（ワイン製造）
- ・ ツチと実（有機栽培）

3 視察調査日

平成 20 年 10 月 12 日（日曜日）

4 施設の概要

（1）前田葡萄園

主にワイン用ぶどうの栽培

420 坪の小規模のブドウ畑で良質かつ少量のぶどう酒を造るために有機栽培で認められている低農薬消毒により信頼されるワイン造りを進めている。

- ・ 年間生産本数 約 500 本 3 年から 5 年びんで熟成して出荷する。
- ・ 製造は専門の醸造所に委託している。
- ・ 販売は通信販売中心だが、近所の葡萄園にぶどう狩りに来たお客さんなどには、希望があれば分けている。
- ・ 値段は、1 本 3500 円
- ・ 種類は、3 種類（ぶどうの品種の関係）
- ・ 従事者は、夫婦 2 人

(2) ツチと実

■観光農園経営は低農薬による薬剤散布と自然肥料で土づくりを続け10年近くになる。また、観光農園として訪れる人が楽しめるようにさまざまなイベントの企画やバーベキューにぶどう以外の農産物の提供をしている。

- ・ 有機栽培農業
- ・ ぶどう狩り持込によるブドウ畑でのバーベキューの提供
- ・ 加工品としてジャムの製造もしている。
- ・ 品種は巨峰を主に三種類に限定している。
- ・ 販売はぶどう狩りが主であるが、お得意さんには通信販売も一部行っている。
- ・ 従事者は
- ・ 3家族で、忙しい時期は、建築設計事務所を営んでいる長男が手伝いに来る。
- ・ 入場料 大人1500円 小学生500円

5 調査結果

両葡萄園とも、低農薬有機栽培を行い、観光農園としての個性を発揮し集客に工夫が感じ取れた。身の丈にあった無理をしない経営で小さな専業農家でありながら生計が成り立っている。

特に、その魅力として感動させられたには、家族がみんなお客さんの対応もして暖かく迎えてくれるところであった。そのことが、口伝えの連鎖になって、新しいお客が毎年増え続けている結果に現れている。当日葡萄園に来ていた人に尋ねたら、「家族や友達と何度も来ている」と言っていた。また、両園の経営者の有機栽培農業をすることへの熱意は圧倒されるものがあった。



ワインの話が尽きない前田さん



手伝いに来ている建築士の水上さん